



すぎ七

杉並区立杉並第七小学校

校長 齋藤 瑞穂

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

令和2年12月1日 No.518

つながりを大切に

副校長 菅野 至

令和2年も残すところ1ヶ月となりました。本来ならば、東京オリンピック、パラリンピックが開催され、「素晴らしい年だった!」「一生忘れられない年になった!」はずだったのですが、逆の意味で記憶に残る1年となってしまいました。新型コロナウィルスの影響で、日本だけでなく世界中でこれまで当たり前だったことが当たり前でなくなり、感染予防や対策にしても、皆が初めて経験することばかりで、誰もが不安の中、試行錯誤の毎日が未だ続いています。

そのような中でも、学校として、これまで杉並第七小学校の児童が学んできたことが途絶えてしまわないように、感染症対策を行いながら、行い方を変えたり、内容を精選したりして、教育活動に取り組んでいます。

その1つである、3年生~6年生の杉七子ども太鼓の発表会と図工の作品展を11月21日(土)に行うことができました。

杉七子ども太鼓は、3年生~6年生が毎年1学期に練習を進め、7月に本校で行われる杉七盆踊りの会場で披露していましたが、今年度は盆踊り自体が中止となってしまいました。しかし、本校の伝統となっている取組です。その後、計画を見直し、秋の学芸的行事の時期に発表することを決めました。

10月半ばから音楽の時間を中心に練習が始まり、学校には昨年度と同様、太鼓の音が鳴り響きました。支援本部の協力のもと、昨年度もお願いした本校の卒業生やスーパー太鼓ジュニアの方々にもゲストティーチャーとして御指導をいただくことができました。また、当日は保護者の方々のみの参観のため、全校で鑑賞し合う場を作ることはできませんでしたが、前日までの練習を学年を限定してお互いに見学することで、切磋琢磨することができ、メッセージを掲示して交流

することで、本番に向けて気持ちを盛り上げることができました。3年生の演奏を見学した2年生は、来年の自分たちの姿をイメージすることができ、6年生の太鼓の演奏を見学した1年生は、その迫力と息の合ったパチさばきに見惚れ、あこがれていました。

作品展は、校舎1階の特別教室、廊下を使用して行いました。一人一人の作品からその制作に対する思いが伝わってくるようで、どの作品もとても見ごたえのあるものでした。こちら、展示してある期間、学級ごとに作品鑑賞を行っています。同じ学年同士の作品はもちろん、他の学年の作品を見ることでお互いにより刺激になりました。普段から作品が目に入る場所にあったので、休み時間に眺めている子もいました。

当日は保護者の皆様にも、学校でがんばっている子供たちの姿をご覧になっていただけたのではないかと思います。

このように、指導してくださる方々や子供たち同士が形を変えながらも関わり合い、これまでの学習のつながりを保つことができたことは、学校として大きな成果だったと考えています。

1,2年生の作品展は12月5日(土)に行います。当該学年の保護者の方々のみの公開となりますが、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、このような活動を安心して行えるのは、いつも支えてくださっている地域の方々、保護者の皆様、そして近隣の皆様の御協力のおかげです。本当にありがとうございます。

今後とも、御理解と御支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

